



## ポンペイと私

川本 悠紀子（西洋古典学）

私がポンペイと初めて出会ったのは10歳の夏だったと思います。当時、父が英国で在外研究していた関係で、休みに家族旅行でイタリアの遺跡を巡ったのです。今ほど観光客がいなかったこと、遺跡にいる野良犬が夕涼みをしに冷たい大理石の湯船でくつろいでいたこと、人や犬の石膏型を見たこと、今は入ることのできない家にも入れたこと、そしてなにより楽しかったということを記憶しています。まさか、この時に訪

れた場所に関連したテーマの研究をすることになるとは思ってもみませんでした。修士論文・博士論文をポンペイに関連した内容で執筆し、二年前からはポンペイを発掘するチームに専門家として参加しています。

この春には、19世紀末から20世紀初頭にかけてポンペイで行われた発掘や復元、そして当時の文化行政政策を探るべく、ローマにある公文書館に行って史料調査をしてきました。これまで読んできた論文や発掘報告書を著した人々の手書きの書簡を読んでいると、「ああ、この人は私の知り合いだ。こんなに字が



綺麗だったのね！」と会ったこともないのに、昔からの知り合いであるかのような錯覚に陥ります。古代ローマ時代の作家直筆のマニュスクリプトは残念ながら現存していませんが、もしもそのようなものがあれば、きっと同じようなことを感じるでしょう。

10歳の時の私の夢は、ロイヤル・シェイクスピア・カンパニーの団員になることだったので、小さい頃の夢は叶いませんでしたが、別の小さい頃の出会いが今に繋がっています。また、先の公文書館は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、翌日閉館になったので、運よく調査を行えたようです。思いのほか、このような小さな偶然の積み重ねが今に繋がっているのかもしれない。

分野・専門紹介—File66

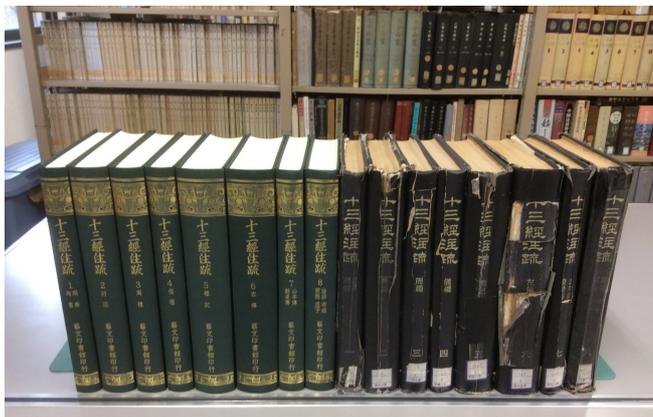
## 時空の旅人

分野・専門名：中国語中国文学

中国語中国文学で学ぶこと。それは時空を超えた旅人となる術。たくさんの本と文字とを友として、中国語や漢籍と向き合う時間の貴さは、なにもものにも代えがたいものです。

好きな作家を見つけたら、とことんまで作品と向き合います。わたしは段玉裁の『説文解字注』と向き合っています。段玉裁の思考を追いながら、風の吹くまま気の向くまま、『説文解字』の文字の海原を漂っています。そのような「場所」を見つけられた幸せを感じています。

中国文学と一口に言ってもさまざまです。ノーベル賞を受賞した莫言など現代の作家の作品、魯迅などの新しい時代の中国語と新しい中国文学を模索した作品、『西遊記』や『三国志演義』などの小説、戯曲や詞というジャンルもありますし、伝奇小説、詩、『史記』などの史書、『荀子』などの諸子の書、それぞれに特有の文体があり構造があり、それらを拠り所として読んでゆくスリリングな体験も中国文学ならではの醍醐



勇氣ある知識人の素

味です。また、バームクーヘンのような言葉の年輪をひとつひとつ確かめながら、一字一字を丹念にたどって読んでいくプロセスは、あたかも時間の流れを遡上するような錯覚をもたらしてくれます。

漢字にも、簡体字、繁体字（旧字体）や、俗字、異体字などの「へんてこりん」な字もあり、普段見慣れている日本の漢字とは異なる文字があふれています。日本語とは違った言葉の仕組みを持つ中国語。その魔力にかかったら、なぜそう表現するのだろう、この字があるのとないのと何が違うだろう、と気になって、読んでいるお話の内容もそっちのけになってしまうこともあるのです。（田村 加代子・准教授）

分野・専門紹介—File67

## 日本語って面白い

分野・専門名：応用日本語学

今年度はコロナウイルスが流行し、オンラインという形で授業がスタートしました。そんな状況にも負けずみんなが楽しく、情熱をもって日本語を面白い。私の大好きな応用日本語学分野を紹介します。

私が所属する応用日本語学分野は、日本語学、日本語教育方法論、日本文化論の知識を身に付け、学生や先生方それぞれが興味関心を持つ分野の研究を行っています。また、日本語について研究するにとどまらず、研究によって得たことを日本語教育などへどのように応用するか、というところまでを視野に入れた分野です。私たちの分野が「応用」日本語学というのはそのためです。

私は「ぼく」「わたし」といった日本語自称詞と人物像の結びつきについて研究しています。例えば男性の方なら、「ぼく」「おれ」「わたし」などを使い分けることがあると思います。時には相手によって、時には場面によって使い分けると思います。では、こんなことはないでしょうか。一目惚れした相手に、「おれ」のほうが男らしいから「おれ」を使う。あるいは「ぼく」のほうが紳士的だから「ぼく」を使う。これは、「おれ」が《男らしい》人物を表す、「ぼく」が《紳士的》な人物を表すという知識を持っているが故の使い分けと言えそうです。私はこのような自称詞と人物像の結びつきが、日本語を学ぶ外国の方が自称詞を使い分けるときの助けになると信じ、研究しています。

このほか、応用日本語分野の学生は、日本語の文法について、ことばの意味について、日本語教育（外国の方に日本語を教える方法）、日本の文化（考え方など）についてなどさまざまなことを研究しています。日本人でも意外と知らない、日本語って面白いですよ！（西澤 萌希・博士後期課程 1年）

最近の文学部

## 今年のオープンキャンパスはオンラインで

大変な春学期でしたが、名大は従来より情報基盤を活用したシステムが充実しており、他大学よりも早く遠隔授業をスタートすることができました。オープンキャンパスもオンラインで開催されます。文学部は8月17日です。（YK）

\*本紙では、名大文学部の多彩な内容を順に紹介していきますが、それまで待てない人は...  
名大文学部のWEBサイト <https://www.hum.nagoya-u.ac.jp/> まで（『月刊名大文学部』のバックナンバーもあります）